

第95回企画展



# いわてのひつじ150年



～岩手の畜産業ではあまり知られていないひつじの魅力にせまる～



岩手で現在一番多く飼われているサフォーク種のひつじ！  
黒いお顔と足が特徴だよ！

1年で約70aの草を食べるよ！  
農家さんの大変な草刈りの作業を  
減らすお手伝いをしているんだ！

羊の毛で色々作れちゃう！  
岩手ではホームパンという  
織物も盛んだよ！

令和7年10月10日（金）～令和8年1月18日（日）

岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

岩手県におけるひつじの導入は、明治9年に福岡村（現二戸市）での約30頭の飼育が始まりとされており、今年で149年を迎えます。この間、時代の趨勢に応じて、羊毛用や肉用などいろいろな品種が導入され、飼育技術の向上や羊毛需要の高まりなどにより、大正から昭和にかけては飼養頭数がピークを迎えたものの、昭和36年の羊毛自由化により頭数は減少し、現在に至っています。

岩手県における令和5年現在の飼養頭数は1,111頭を超えており、増加傾向にあり、北海道に次いで全国第2位となっています。近年は、奥州市梁川地区での耕作放棄地対策としての導入事例、滝沢市での大規模飼育牧場の登場、花巻市での休耕田等を活用してブランド羊肉をめざすひつじ農園の開設、遠野ジンギスカンの広まりなど、にわかに活気を帯びてきています。

今回の企画展では、岩手県政150年に合わせて、本県におけるひつじ導入のはじまりから、飼育方法、羊毛や羊肉の利用など、岩手県の畜産業ではあまり知られていないひつじの魅力について紹介いたします。



放牧風景（奥州市）



ホームスパン（盛岡市・花巻市）



バケツジンギスカン（遠野市）

岩手県立農業ふれあい公園

## 農 業 科 学 博 物 館

北上市飯豊3-110 TEL：0197-68-3975

当館には2つの展示室があります。

1つ目は古い農具や民具の展示で岩手の農業の歴史を紹介する「農業れきし館」です。

2つ目は、パズルやクイズなどで岩手の農業を紹介する「農業かがく館」です。

小さなお子様から大人まで楽しみ、敷地内にある「農業ふれあい公園」では、散策など楽しめます。

開館時間/4月～11月：9：00～16：30（入館は16：00まで）

12月～3月：9：00～15：30（入館は15：00まで）

休館日/月・火曜日（月曜日が祝日の場合は直後の水曜日）

12月～3月の休館日情報は、下記ホームページに随時掲載されます。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/nouken/park/>

入館料/一般320円 学生150円 高校生以下は無料 ※20名以上で団体割引あり。

障害者手帳などの交付を受けている方、介護サービス事業などで入館される方は入館料が無料になります。

駐車場/大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台